

いわかげ

— No. 121 — 2010, 8, 31

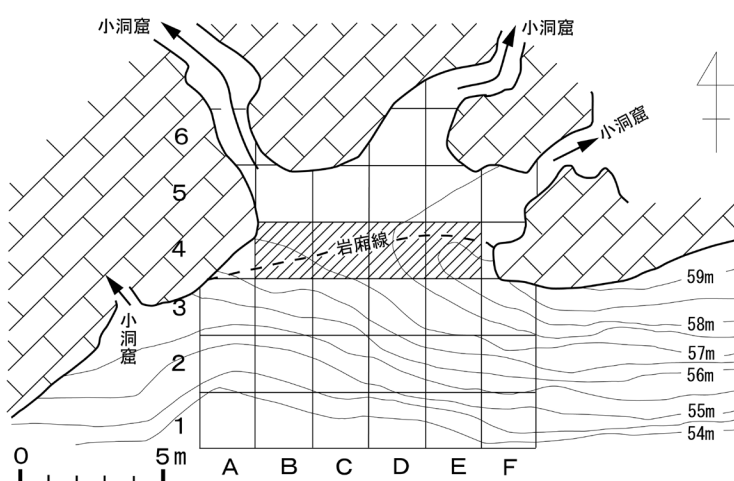
広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2010 年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 第Ⅲ期(8月25日～31日)

帝釈大風呂洞窟遺跡の調査 帝釈大風呂洞窟遺跡第15次調査 第Ⅲ期

8月4日から始まった今年度の大風呂洞窟遺跡の調査も8月31日をもって終了となりました。今年度はC・D・E-4区を調査区とし、D・E-4区では縄文時代草創期～早期から前期にあたると思われる第4層から第5層の調査を行いました。



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(斜線部が今年度の調査範囲)

した。例年と比べて天候にも恵まれたため作業もはかどり、第4層を完掘し、第5層を深く掘り込むことができました。土器や石器などを出し、さらに年代を特定することを期待していましたが、残念ながらこれらの層から土器はほとんど発見することはできませんでした。しかし、遺物としては石器の製作時に剥離されるフレークやチップ(安山岩・黒曜石製)、マイマイなどの陸貝や動物骨などが出土し、遺構としては火をたいた跡(焼土面)が発見されました。中でも、石器の素材に使われたサヌカイトと黒曜石は帝釈峡周辺には無い石材で、遠方より運び込まれたものと考えられ、当時の交易の範囲の広さがうかがえます。

C-4区では第5層の下第6層がどのような堆積しているかを確認するために1

部分を深く掘り込みました。15 cmから20 cmほど掘り込みましたが、第6層の堆積は複雑で、今年度の調査のみではわからないところも多く、来年度以降も継続して調査を行っていきます。

また、本遺跡の現地説明会を8月28日に開催いたしました。天候にも恵まれ、考古学に関心のある皆様に参加していただき、無事説明会を終えること



大風呂遺跡現地説明会の様子

ができました。暑い中、大風呂遺跡までの足場の悪い急斜面を上り、私達の発掘成果を見ていただきまして本当にありがとうございました。こうした説明会が、地元の皆様に歴史・考古学の調査に触れていただける良い機会になればとの思いで一同これからも努力して参りますので、来年度以降の説明会にも是非参加していただければと思います。

最後に、今年度の調査で出た遺物は大学に持ち帰って詳細に研究し、大風呂遺跡でのこの時代の人々の生活を解き明かす鍵になると期待しています。しかしⅡ期の調査以降、雨などの影響で予定通りに調査が進まなかったこともあり、分らないことがまだまだ多くあります。それらを解明していくために来年度も引き続き調査を行っていきますので、今後とも我々広島大学考古学研究室にご期待ください。

(3年 松永直輝)

コラム1 『発掘調査を終えて』

僕は今回初めて大風呂遺跡の発掘調査に参加しました。大風呂遺跡は、観音堂遺跡の約50m上に位置しており、そこに行くだけでかなりの体力を奪われました。実際の発掘ではガリという道具を使って掘り下げるのですが、力のない僕にとってはけっこう辛い作業でした。ちょっと筋トレをしようと思いました。もう一つ、掘り下げた土を水で洗い遺物があるかどうか確かめる「水洗」という作業があります。自分はまだ遺物を見分ける力が未熟なので石灰岩を骨だと何度も間違えました。間違える度に先輩に投げ捨てられますが、こうやって成長していくんだと感じました。来年は後輩の間違ったものを投げ捨ててやろうと思います。また、発掘調査中は共同生活でした。普段の怠けた生活から一変、規則正しい健康的な生活が送れました。来年も大風呂遺跡の発掘調査があるので頑張りたいです。

(2年 森本直人)

コラム2 『穴があったら入りたい』

僕は、考古学を専攻している岡山大学の4年生です。今回、卒業論文で洞窟遺跡にかかわるテーマを扱っている関係で、帝釈峡大風呂洞窟遺跡の発掘調査に参加させていただきました。他大学の発掘調査への参加ということで、いろいろと不安もありましたが、生活関係や調査関係について広島大学のみなさんが親切に教えてくれ、楽しく調査期間を過ごすことができました。

また調査に関して、初めて経験することもいろいろとありました。遺跡までの急斜面は、上り下りで体力を消費しますし、荷物を運ぶのも一苦勞です。ロープなどを利用して掘りだした土を下まで降ろす作業はとても印象的でした。そのほか、蛇や蚊も作業を妨げる天敵です。集中しているそばからブーンという羽音が迫ってきて、本当に厄介でした。

僕は大学では洞窟探検サークルに所属しています。それがきっかけで洞窟遺跡について研究しようと思ったのですが、大風呂洞窟遺跡を発掘しているとついつい洞窟内を探検したくなってしまいます。

洞窟内は年間を通じて温度変化が少なく、夏涼しく冬温かいという環境です。暑さが厳しいこの季節、洞窟で涼んでみてはいかがでしょうか。

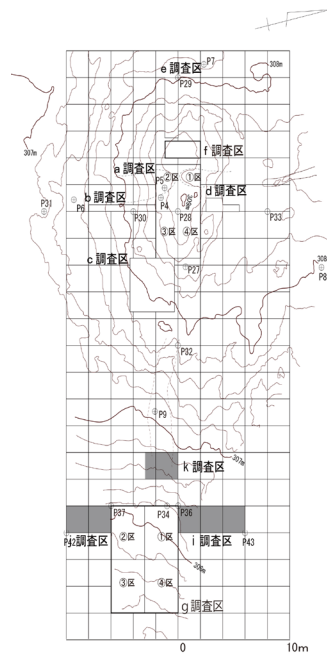
(岡山大学4年 山田侑生)

佐田峠墳墓群

本遺跡は、庄原市宮内町佐田峠に所在する弥生時代の墳墓群で、庄原市教育委員会による試掘調査によって発見されました。現在までに5基の墳墓が確認されており、その内少なくとも3基が四隅突出型墳丘墓です。

四隅突出型墳丘墓は、墳丘の四隅が外に張り出した墳墓で、今から約2000年前、弥生時代中期～後期にかけて、中国山地から山陰、北陸の一部にまで広がっています。また、突出した四隅の1つが残り、前方後円墳になったとの説もあります。

そして佐田峠墳墓群は、そのすぐ南にある佐田谷墳墓群とともに、突出部の形状、出土遺物などから四隅突出型墳丘墓の初源形態である



第2図 佐田峠墳墓群調査区配置図
(斜線部が今調査予定範囲)

と考えられています。このことから、佐田峠墳墓群は弥生時代の墓制を探る上でとても重要な遺跡です。広島大学考古学研究室は本遺跡の保護、確認のため2007年度から3次の調査に亘って庄原市との共同研究を行っており、今年で4次の調査になります。4号墓および5号墓の調査を行った昨年度は、調査を進めて行くうちに、4号墓の周辺



宿舎でのミーティングの様子

にも他の墳墓が存在する可能性が想定され、今年度の調査は、それらの存在の有無と4号墓の範囲確認が目的となっております。

第Ⅰ期の調査（8/25～31）は、庄原市教育委員会によって草刈りを行って頂いた区画に新たな調査区を設定し、その地形を測量することから始まりました。これらは、調査を進めるにあたりまず初めに行う、とても重要なことです。その後土層を掘り下げていき、調査区の一部では墓の上面を確認することができる所もありました。来期以降は、墳墓がどのくらいの大きさで、どのような形をしているのか、確認を進めていくことになります。遺物としては、土器片などが数点検出されましたが、墳墓に属するものではなく、今後の調査で墳墓の時期が分かる遺物が出土することが期待されます。

大風呂洞窟遺跡の調査は今期で終わりですが、佐田峠墳墓群の調査はまだ始まったばかりです。来期以降も精一杯調査を進めていくつもりですので、今後の成果にご期待ください。

（3年 東 麻衣）

人物往来

（8月25日）

広島大学文学研究科 山内研究科長
広島大学文学研究科支援室 松田さん・沖山さん

参加者名簿（Ⅲ期 8月25日～8月31日）

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	准教授	野島 永
同上	大学院生	山手貴生 (D2) 齋藤友紀 (M2)
		今津和也・谷口早季・横山瑛一 (M1)
広島大学文学部	学部生	伊川桃子・小林新平・田頭英尚
		東 麻衣・松永直輝・三浦 晋
		水川祐樹 (3回生)
		関内由衣・中神恵美・藤井翔平
		森本直人 (2回生)
愛知教育大学	学部生	青山雄亮 (4回生)
岡山大学	学部生	山田侑生 (4回生)

陣中見舞い (50音順)

荒平 悠さん・辻村哲農さん	アクエリ阿斯・お茶・お菓子
青山雄亮さん	お菓子
谷岡能史さん	きな粉
中国新聞 林記者	リポビタミンD
広大考古学研究室4回生	アクエリ阿斯・お菓子
文学研究科支援室の皆さん	飲物
山内研究科長	金一封
山田侑生さん	みかん餅
油木町公民館	ビール
横山家	素麺・焼酎

地元の皆様には、本年度も物心両面でご支援いただきまして、本当にありがとうございました。文末となりましたが、この場を借りてお礼を申し上げます。

コラム3 『佐田峠墳墓群』

私が初めて佐田峠墳墓群に来たのは19歳の夏である。初めてそこへ来た時に気になったことが佐田峠墳墓群の近くの橋の名前が『さただお』ではなく『さだたお』となっていたことだ。橋の名前を考えた人は何を思って『さだたお』にしたのだろう。それとも正式名称が『さだたお』で実は『さただお』のほうが違うのではないだろうか。その名前を見た時に私は読み方の違いに関心を持った。実際に佐田峠墳墓群の発掘をしてみると、去年の先輩たちの話では暑くて死にそうだったとか、きつ過ぎるとか1期間で根切りしかしていないとかいろいろなことを聞いていたため佐田峠墳墓群に発掘に行く時相当な覚悟をしていた。しかし実際は雲もあり、根切り以外のこともしたのでそこまでの覚悟は必要なかった。それに、j-②区から小さな土器片を見つけることができたため多少の喜びを感じつつ積極的に発掘に参加することが出来た。私は8月30日が今年で最後の発掘だから、来期も発掘する人に希望を託したい。

(2年 関内由衣)

編集後記

この文章を書いている今、日時は8月31日の19時04分。夏休みがあと数時間で終わろうとしている今、世の小学生の多くは宿題に追われている頃かもしれません。かく言う私も、夏の宿題を余裕を持って終わらせるのが苦手な子供でした。そして、それは大学院生になった今でも治らない、悪い癖になってしまいました。というのも、我々考古学研究室の学生は毎年、夏の現場から何かしらの宿題を持って帰ってしまうのです。勿論それは次回の発掘に繋げてゆくものなのですが、それでも、だからこそ、答え合わせは1年先送りです。

本年度の発掘調査は残すところ約2週間。なるべくなら花丸の答案を持って帰りたいものです。

(編集 横山瑛一)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峠遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>